

第四次産業革命スキル習得講座 講座情報

実データで学ぶ人工知能講座

日標とするレベル □当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育に自動なきるレベル 人工知能に関する体系的知識を獲得することで、人工知能に関する様々な知識・汎用的能力を有し(問題解決)、ンだユーヴサイエンスの知識・プログラシグ技術を駆使でき(具現化)、具体的な社会課題に適用できる(活用)力を身につけることを狙しとした。AI即戦力人材養成、ならびに、体系的知識の学びから俯瞰力が参和戦力がらのを対した。そ活用する事業における経営判師を下すことのできる人材養成 1) 「機械学習の基礎」と行り識情報学」:コンピュータに学習能力を備えさせることを目的とした機械学習の基礎と別識情報学」:コンピュータに学習能力を備えさせることを目のとした機械学習の基礎・形態素解析や痛な解析などの基礎解析技術、さらに画像処理、自然言語処理ので、ソクルを疑いな技術を中心に、数理的背景を含む体系的学びを行い、人工知能、機械学習の基礎知識を習得。2) 「自然書題処理」「コンピュータビジュン」:言語、音声、画像データに触れなが、パクーン認識で必須のペイス決定則などの数学的基礎、形態素解析や痛な解析などの基礎解析技術、さらに画像処理、自然言語処理の要と践までの教護を得るように、人工知能に関する体系的知識之人工知能分野の解職力の獲得 諸屋の理解・習得のために推奨される実際に関する体系的知識と人工知能分野の解職力の獲得 諸理の理解・習得のために推奨される実際に関する体系的知識が不上力を作った立役者とも言える深層学習をその歴史的発展から現在に受される知識・技術・とうに画を処理、自然言語処理の方とが開発したいるとが望ましい。 ステム開発やプログラシグ開発の経験歴が3年以上あることが望ましい。 大学 1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得意)、解析学(普通)) Pythonicよるプログラシグを数数が、対象が対象を対象が表示した。事前学習を指導している。 技術・知識の到達度の ・ 世元 (科目) 毎に、毎回の講義で出題される演習課題の採点結果を合質し、100点満点にして60点以上を合格と判定する終了が正常は、受講科目毎の点数と受講生内での順位が記載された成績表も含まれる。 修了認定是単に満たない 安講教内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・ 電話の音を表している。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・ 当前を指する 対域に対する 学習支援を対域に対する 学習支援を対しては、チャット(Slack)による問疑応を挙載し、随時がオートできる体制を整えた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								
おいまから 148 152月間 2021/10 ~ 2024/9 実施方法 1日 2024/9 大学定日 25 名 25 3	実施者	一般社団法人データビリティ	コンソーシアム					
実施方次	講座名称	実データで学ぶ人工知能講	座					
15 日間 調検期間	認定番号	50308-1148		認定期間		2021/10	\sim	2024/9
### 1,320,000円 会計 1,320,000円 会計 1,320,000円 教育部域 2,学科 受講料 1,320,000円 会計 1,320,000円 教育部域 2,学科 無し	実施方法	土日		入学定員		25 名	3	
対象分野	訓練期間	15 日間		訓練時間		100 日	計間	
対象分野	開講月	6月、11月						
科学の教育内容 A II 調座の教育内容 AIDN戦力人材の養成(知識情報学・機械学習の基礎・コンピュータビジョン・自然言語処理・実践深層学習) ・ 当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、業務上の課題の発見と解決をリードするとともに、後進育成にたらない。 日信とするレベル 日当に教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育、にた貢献できるレベル 日当は教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育、にた貢献できるレベル 人工知能に関する体系的知識を獲得することで、人工知能に関する様々な知識・汎用分能力を有し(問題解決)、人どユータサイエンスの知識・プログラミング技術を駆使でき(具現化)、具体的な社会課題に適用できる(活用)力を活用であることを担いとした。私即能力人材養成、ならびに、体系的知識の学どから帰職力が強わることで、人工知能、経済を選出の書屋、とは関係解学 ! コンピュータに学習能力を備えさせることを目的とした機械学習でテータマインの基礎的技術を中心に、数理的背景を含む体系的学じを行い、人工知能、機械学習の基礎が関係を当て、人工知能の関係解学 ! コンピュータに学の基礎的なが成を中心に、数理的背景を含む体系的学じを行い、人工知能、機械学習の基礎が到底を選得 2) 「自然言語処理リコンピュータビジョン」: 言語、音声、画像データに触れなが、パター・認識で通知を習得 2) 「自然言語処理リコンピュータビジョン」: 言語、音声、画像データに触れなが、パター・記書で必須のベイズ決定 調接得 3)、実践深海学習では、第三次人工知能プームを作った立るとが高えらと言える深層学習を必要の外外では、第三の理解・習得のために推奨される実施を対していることが関生しい。 大学 1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得高)、解析学(普通)) 大学 1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得高)、解析学(普通)) 大学1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得高)、解析学(普通)) 大学 1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得高)、解析学(普通)) 大学 1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得高)、とたいまで対するともに、事前学習を指導している。 技術・知識の別様できるが学の対しまないまなが表に表しまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないま	受講経費	入学料	受講料	1,320,000円	合計	1,320,000円		
□によするレベル □によするレベル □には、 □により、 □には、 □には、 □には、 □には、 □には、 □には、 □には、 □には	教育訓練給付指定	無し		指定期間				
■当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、業務上の課題の発見上解決をリードするとともに、後進育成に含むレベル □当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、業務上の課題の発見上解決をリードするとともに、後進育成に含むレベル □当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育がにも貢献できるレベル 人工知能に関する体系の対識・ブログラング技術を駆使でき(具現化)、具体的な社会課題に適用できる(活用)の場合に対ることを狙いとした。AI即戦力人材養成、ならびに、体系的知識の学化から俯瞰力が強われることで、人工知能を活用する事業における経営判断を下すことのできる人材養成 1)「機械学習の基礎ととは「知識情報学」: コンピュータに学習能力を備えさせることを目的とした機械学習の子のな知識が担当してシータビジョン」: 言語・音声、画像データに触れながら、パターン認識の必須のベイス決定別なを数学的基礎、形態素解析で構文解析などの基礎的材料が構、さらに画像処理、自然言語処理の実践までの対談獲得 3)「実践深層学習」では、第三次人工知能ブームを作った立役者とも言える深層学習をその歴史的発展から現在に至される対策・方式・アタータに触れつつ学習全の制度・おりました。システム開発やプログラシグの対象を経験歴が3年以上あることが望ましい。システム開発やプログラシグ自発験数学知識(統計・確率 (普通)、線形代数 (得意)、解析学 (普通)) Pythonによるプログラシの知識が不十分また不得意という方には、推奨図書を提示するとともに、事前学習を指導している。技術・知識の到達度の世元(科目)毎に、毎回の講義で出題される演習課題の採点結果、受講生間での順位ランキングを介護し、対画配信を観続視聴できるサービスを提供している。 権力を定義はいます。とての講義内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 全ての講義内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・ 第四番目は、講座を持回を専攻する大阪大学大学院生をティーチングアシスタント(TA) 1・2名雇用し、会場における学習支援を行る。・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	対象分野	ΑΙ						
日標とするレベル □当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育に自動なきるレベル 人工知能に関する体系的知識を獲得することで、人工知能に関する様々な知識・汎用的能力を有し(問題解決)、ンだユーヴサイエンスの知識・プログラシグ技術を駆使でき(具現化)、具体的な社会課題に適用できる(活用)力を身につけることを狙しとした。AI即戦力人材養成、ならびに、体系的知識の学びから俯瞰力が参和戦力がらのを対した。そ活用する事業における経営判師を下すことのできる人材養成 1) 「機械学習の基礎」と行り識情報学」:コンピュータに学習能力を備えさせることを目的とした機械学習の基礎と別識情報学」:コンピュータに学習能力を備えさせることを目のとした機械学習の基礎・形態素解析や痛な解析などの基礎解析技術、さらに画像処理、自然言語処理ので、ソクルを疑いな技術を中心に、数理的背景を含む体系的学びを行い、人工知能、機械学習の基礎知識を習得。2) 「自然書題処理」「コンピュータビジュン」:言語、音声、画像データに触れなが、パクーン認識で必須のペイス決定則などの数学的基礎、形態素解析や痛な解析などの基礎解析技術、さらに画像処理、自然言語処理の要と践までの教護を得るように、人工知能に関する体系的知識之人工知能分野の解職力の獲得 諸屋の理解・習得のために推奨される実際に関する体系的知識と人工知能分野の解職力の獲得 諸理の理解・習得のために推奨される実際に関する体系的知識が不上力を作った立役者とも言える深層学習をその歴史的発展から現在に受される知識・技術・とうに画を処理、自然言語処理の方とが開発したいるとが望ましい。 ステム開発やプログラシグ開発の経験歴が3年以上あることが望ましい。 大学 1、2 年程度の基礎数学知識(統計・確率(普通)、線形代数(得意)、解析学(普通)) Pythonicよるプログラシグを数数が、対象が対象を対象が表示した。事前学習を指導している。 技術・知識の到達度の ・ 世元 (科目) 毎に、毎回の講義で出題される演習課題の採点結果を合質し、100点満点にして60点以上を合格と判定する終了が正常は、受講科目毎の点数と受講生内での順位が記載された成績表も含まれる。 修了認定是単に満たない 安講教内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・ 電話の音を表している。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・ 当前を指する 対域に対する 学習支援を対域に対する 学習支援を対しては、チャット(Slack)による問疑応を挙載し、随時がオートできる体制を整えた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	講座の教育内容	AI即戦力人材の養成(知識情報学・機械学習の基礎・コンピュータビジョン・自然言語処理・実践深層学習)						
具体的な到達目標	目標とするレベル	□当該教育訓練が対象とする技術や手法等を活用して、新規ビジネスやサービス等の創出が可能であるほか、後進育成						
図得できるスキル 図得できるスキル 図得できるスキル 図得できるスキル 図得できるスキル 図得できるスキル 図月できるスキル 図月できるスキの 図月できるスキの 図月のために 推奨される実務経験 ステント (日間の) の経験性が 3 年以上あることが望ましい。 システム開発やプログラミング開発の経験性が 3 年以上あることが望ましい。 システム開発やプログラミング経験 数学やプログラミングの知識が不十分また不得意という方には、推奨図書を提示するとともに、事前学習を指導している。 技術・知識の到達度の 1世紀・別定方法 図月できるストの 科目毎に全ての講義で出題された演習課題の採点結果を合算し、100点満点にして60点以上を合格と判定する。 図月できるようにしている。コース終了後も、希望者には、 動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 全ての講義内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、 動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 全ての講義内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、 動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・ 「講座当日は、講座各科目を専攻する大阪大学大学院生をティーチングアシスタント(TA) 1-2名雇用し、会場における 学習支援を行う。 ・ 「講座等での翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。 ・ 毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終アから次回講座前日までの間、TAならびに講師がチャットにより質	具体的な到達目標	人工知能に関する体系的知識を獲得することで、人工知能に関する様々な知識・汎用的能力を有し(問題解決)、コンピュータサイエンスの知識・プログラミング技術を駆使でき(具現化)、具体的な社会課題に適用できる(活用)力を身につけることを狙いとした、AI即戦力人材養成、ならびに、体系的知識の学びから俯瞰力が養われることで、人工知能を活用する事業における経営判断を下すことのできる人材養成						
講座の理解・習得のために 推奨される知識・技術 大学 1、2 年程度の基礎数学知識 (統計・確率 (普通)、線形代数 (得意)、解析学 (普通)) Pythonによるプログラミング経験 数学やプログラミング経験 数学やプログラミングの知識が不十分また不得意という方には、推奨図書を提示するとともに、事前学習を指導している。 技術・知識の到達度の 把握・測定方法 移了認定の判断基準 科目毎に全ての講義で出題された演習課題の採点結果、受講生間での順位ランキング 科目毎に全ての講義で出題された演習課題の採点結果を合算し、100点満点にして60点以上を合格と判定する 終了証書には、受講科目毎の点数と受講生内での順位が記載された成績表も含まれる。 修了認定基準に満たない 受講者への措置 社会人が受講しやすい 工夫 ・講座当日は、講座各科目を専攻する大阪大学大学院生をディーチングアシスタント(TA) 1・2名雇用し、会場における 学習支援を行う。 ・また、遠隔参加者に対しては、チャット(Slack)による質疑応答を準備し、随時サポートできる体制を整えた。 ・講座終了の翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。 ・毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終了から次回講座前日まで間、TAならびに講師がチャットにより質	習得できるスキル	2)「自然言語処理」「コンピュータビジョン」: 言語、音声、画像データに触れながら、パターン認識で必須のベイズ決定 則などの数学的基礎、形態素解析や構文解析などの基礎解析技術、さらに画像処理、自然言語処理の実践までの知 識獲得 3)「実践深層学習」では、第三次人工知能ブームを作った立役者とも言える深層学習をその歴史的発展から現在に 至るまで実データに触れつつ学習						
アップリングラミングの知識が不十分また不得意という方には、推奨図書を提示するとともに、事前学習を指導している。								
把握・測定方法 修了認定の判断基準 科目毎に全ての講義で出題された演習課題の採点結果を合算し、100点満点にして60点以上を合格と判定する終了証書には、受講科目毎の点数と受講生内での順位が記載された成績表も含まれる。 修了認定基準に満たない 受講者への措置 全ての講義内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 社会人が受講しやすい 工夫 ・講座当日は、講座各科目を専攻する大阪大学大学院生をティーチングアシスタント(TA) 1-2名雇用し、会場における学習支援を行う。 ・また、遠隔参加者に対しては、チャット(Slack)による質疑応答を準備し、随時サポートできる体制を整えた。・講座終了の翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。 ・毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終了から次回講座前日までの間、TAならびに講師がチャットにより質								
修了認定基準に満たない 受講者への措置 社会人が受講しやすい 工夫 一受講者に対する サポート体制 ・ また、遠隔参加者に対しては、チャット(Slack)による質疑応答を準備し、随時サポートできる体制を整えた。 ・ 講座終了の翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。 ・ 毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終了から次回講座前日までの間、TAならびに講師がチャットにより質		単元(科目)毎に、毎回の講義で出題される演習課題の採点結果、受講生間での順位ランキング						
受講者への措置 社会人が受講しやすい 工夫 全ての講義内容を録画し、動画配信による受講生は視聴し、学習できるようにしている。コース終了後も、希望者には、動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・講座当日は、講座各科目を専攻する大阪大学大学院生をティーチングアシスタント(TA) 1-2名雇用し、会場における学習支援を行う。 ・また、遠隔参加者に対しては、チャット(Slack)による質疑応答を準備し、随時サポートできる体制を整えた。・講座終了の翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。・毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終了から次回講座前日までの間、TAならびに講師がチャットにより質	修了認定の判断基準	科目毎に全ての講義で出題された演習課題の採点結果を合算し、100点満点にして60点以上を合格と判定する終了証書には、受講科目毎の点数と受講生内での順位が記載された成績表も含まれる。						
工夫 動画配信を継続視聴できるサービスを提供している。 ・講座当日は、講座各科目を専攻する大阪大学大学院生をティーチングアシスタント(TA) 1-2名雇用し、会場における学習支援を行う。 ・また、遠隔参加者に対しては、チャット(Slack)による質疑応答を準備し、随時サポートできる体制を整えた。 ・講座終了の翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。 ・毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終了から次回講座前日までの間、TAならびに講師がチャットにより質								
学習支援を行う。								
「最近できる。」というでは、「は、10mmでは、10		・また、遠隔参加者に対しては、チャット(Slack)による質疑応答を準備し、随時サポートできる体制を整えた。 ・講座終了の翌々日より、講座の動画配信をおこない、復習できる。 ・毎週の課題学習を含め講座内容について、講座終了から次回講座前日までの間、TAならびに講師がチャットにより質						
教育訓練施設 大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 北館2階 所在地 ナレッジキャピタル ザ・ラボ みんなで世界一研究所内 アクティブスタジオ								
ホームページ https://www.cds.or.jp/jinzai/course01/saturday.html	ホームページ	https://www.cds.or.jp/jinzai/course01/saturday.html						